

優秀賞

## 笑顔の種まき

群馬県 勢多農林高等学校三年 淡路 留伊

「花はね、人の心を癒してくれるんだよ。」

これは、祖父が私に教えてくれた言葉です。その言葉を聞いた時、「だからじいちゃんはいつも笑顔なんだ」と、祖父の笑顔の秘密を知りました。

私の祖父は趣味で園芸をしていました。まるで子どもを可愛がるように、花をいじり楽しんでる祖父が大好きで、いつも祖父から笑顔と元気をもらっていました。

しかし、その祖父はもういません。最後の最後まで笑顔で天国に行ってしまった。

私は「じいちゃんのようにいつも笑顔でいたい」と思い、花に関する知識や技術を学ぶため、勢多農林高校グリーンライフ科フラワーデザインコースに入学しました。フラワーデザインコースでは、花を育てたり、アレンジしたりと、花と接することが多く、楽しい日々で「勢多農に入学して本当によかったー」と、私は毎日笑顔でいっぱいでした。

しかし、笑顔がトレードマークだった私が、笑顔をなくしてしまった時期がありました。大きな悩みから何を

しても人の目を気にしてしまい、学校に行くのも嫌になっ  
てしまいました。

そんな時、特別支援学校との交流会でコサージュ作りに行  
く事になりました。自信をなくし、自分からは何もできず臆病  
になっていた私。その日も朝から「私なんかに出るはずがない」と、不安な気持ちで押しつぶされそ  
うでした。

学校に着いてもまだ気持ちは沈んだまま。私は逃げたい気持  
ちがぬぐえないまま、教室に入りました。私は高校三年生の女の  
子三人と、一緒にコサージュを作ることになりました。しかし、  
どうしたらいいか分からず、ただずっと花を見つめていま  
した。すると祖父の笑顔が目につかびました。そのとき聞  
こえた気がしたのです。「がんばれ！」という祖父の声が。

私は勇気を出し、  
「よろしくね。」

と、少し不安の残る笑顔でその子たちに話しかけました。  
すると

「作るの楽しみです！」  
と、笑顔で返してくれました。私の中から不安という物が消えていきました。全く話しかけられなかった私に、花が笑顔の種をまいてくれたおかげで会話も弾んでいきました。

完成した作品を胸につけた女の子は  
「すごくきれい。こんなの初めて作った。ありがとう！」

と、満開の笑顔で言ってくれました。それを見て「交流会に参加してよかった。花は笑顔と会話の花を咲かせてくれるんだ」花がもたらした笑顔により救われ、私は笑顔を取り戻せたのです。

「私のように笑顔を失ってしまった人達に花で笑顔を取り戻してほしい」

私は、「花を通じてたくさんの人に笑顔を届ける人になりたい」と思うようになりました。

そして今度は、自分で交流会を企画してみようと、大きく一歩前へ進みました。

現在、『花で笑顔プロジェクト、フラワーデザインの力で地域を笑顔に』というテーマのもと、老人ホームでの交流会を中心に活動をしています。

あるとき、研究活動の一環で、ある老人ホームへ交流会に行くことになりました。私がお年寄りの前に立ち笑顔で挨拶をすると、すごく大きな拍手で歓迎してください

いました。あるおばあさんと一緒に花の折り紙を作っていたら、

「毎日ベッドでテレビ見ているだけだから、すごく楽しいね。」

と、私に話しかけてきました。おばあさんを見ると祖父と同じ優しい笑顔が溢れていました。完成した作品を手に取り、

「お前さんの名前をここに書いておくれ。」

と渡され、私の名前を書いてプレゼントしました。

おばあさんは大切そうに抱え、

「お前さんのことはずっと忘れないよ。」

と涙を浮かべ私に言いました。私は心が温かくなり、涙があふれてきました。

その時、祖父が私に伝えたかった笑顔の本当の意味がようやくわかりました。

「花は人を笑顔にさせ、笑顔は人と人の心を繋げてくれるのだ」と。

私は祖父の思いを継ぎ、これからもたくさんの方が笑顔になるための取り組みを継続していきます。高校卒業後は、祖父の言葉や今までの活動から学んだことをいかし、生きる希望を支援する介護福祉士になりたいと考えています。そしてたくさんの方の笑顔を咲かせるための種まきをしていきます。その人にあった花を探し、その人が満開の笑顔を咲かせることが私の目標です。

私は沢山のことを教えてくれた祖父に伝えたい事があ  
ります。  
「じいちゃん、じいちゃん笑顔は私の中で一番だよ。  
花は心を癒してくれるだけじゃない、人の心と心を繋  
げてくれるんだね。花を学んでやっとわかったよ。あ  
りがとう」

